

旭

印刷を支え加工を活かす

瓜破工場 折部門
井上美桜

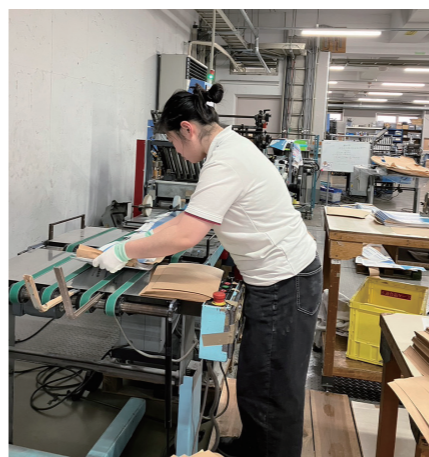
旭紙工業株式会社で、瓜破工場の折部門に所属する井上美桜さん。モノづくりが好きで旭紙工に興味を持ち、入社したいまは完成した商品を見てやりがいを感じているとのこと。そんな井上さんに、仕事を続けてこられた理由や仕事のやりがいなどについて伺いました。



まずは入社の際の経緯を教えてください。

学生の頃から、モノづくりに楽しさを感じており、何かを作るような職種に就きたいと考えていました。そんな中、旭紙工を紹介されたのです。応募をする前に会社見学をした際、社員の皆さんの挨拶の声が大きかったことが印象に残っています。職場の雰囲気が活気に満ちていると感じました。また、50年以上続く会社であるということ、制度が整っていることを知り、「ここで働きたい！」と思いました。

入社前はワクワクしている反面、「やっていけるのかな」と不安に思っていたことを今でも思い出します。それでも、一人ひとりが与えられた



仕事をしっかりとこなす姿勢、困ったことを相談しやすい社風に魅力を感じ、入社を決意しました。

——では、これまで苦労した経験はありますか。

仕事でのミスもちろん忘れられません。2週間の間、会社を休んでしまったことが印象に残っています。入社して数年目のとき、繁忙期で忙しくしていました。無理をしていることに気づけていませんでした。そんな日々を過ごし繁忙期が終わった直後、高熱を出し寝込んでしまったのです。また、復帰をしても体調は戻



らず周囲に迷惑をかけてしまいました。その経験から体調管理は徹底するようにしています。

——仕事のやりがいをどのようなときに感じますか。

自分自身が関わった商品を見かけたときです。以前、家族と遊びに行った先で自身が所属する部門で定期的な携わっている商品を見かけることがありました。そのときは「この仕事をやっていて良かった」と心から思いました。

——会社の好きなところを教えてください。

やはり雰囲気が良いところです。人と人の距離も近すぎず遠すぎずで、程よい距離感だと思います。会社で開催されるイベントも魅力の一



つ。毎回楽しんで参加することができています。

楽しむときは楽しむ、一生懸命に取り組むときは取り組むとメリハリがある環境も良さの一つです。例えば、カレンダーを製作する繁忙期シーズンは、社員一丸となったり、社長が手伝ってくださったりと、部門を超えた関わりがあるところも魅力だと感じます。

——最後に、今後の目標を教えてください。

2022年の後半あたりから始めた糊を使った作業のスキルアップを目指していきたいと思っています。知識をつけ、糊の位置や付き方、強さ等今よりも良し悪しを判断できるようにすることが目標です。また、機械の調整を苦手としているので、その苦手を少しずつなくしていければと思います。

その他にも、穴あけ機械の知識がほとんどないため、知識をつけ作業ができる幅を広げていけるよう、精進してまいります。

向上心を持って日々の業務に取り組む井上さん。さらなるスキルアップに努め、進化し続けている姿に期待が膨らみます。



企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：17億円
- ◆ 従業員数：200人

部署紹介

Department Introduction



物流チームに迫る！

4年間で起きた出来事とは!?

未来への希望を語った4年前。物流チームの変遷は、仲尾さんの目にどのように映ったのでしょうか。世界を揺るがしたコロナの余波を受けながらも、次代に向けて力強く歩を進める皆さんの様子を語ってくれました。

メンバー構成

部長	仲尾	課長	峯
正社員	林・小西・松本・野口・松尾		
アルバイト	井上・黒木・木田・津守・住本		

チーム物流のいま

人と立場の移り変わり

業務内容に大きな変更はありませんが、今年中に新しい社内システムを実現する予定です。それにより、物流や現場がやりやすくなるような環境を構築していきたいと考えています。また、当時リーダーだった峯さんが昇格し、現在は課長を務めています。峯さんはもともと断裁を担当しており、現場を担当しているときから一緒に仕事をしていました。数年前、社長の意向もあって物流部に入ることになったのですが、責任者として十分な資質を持っているため、彼を課長にするのが私の役目だと決意。そして、実際に本当によくやってくれていると思います。親よりも年上の方から新入社員までがおり、その中で言葉を使い分けて頭をフル回転させながら臨んでいる姿を見かけることも。思いがメンバーに伝わらないときにも感情的にならず、「どうやったら伝わるんだろう」と考えながら行動しているのが伝わってきます。無事に課長就任が実現したので、私としては本当に嬉しい限りです！

物流部 部長
なか お ひろ と
仲尾 洋人さん

物流チームの歩み

2019年

夜の引越し作業

2019年8月に、大きいtent倉庫を撤去することになりました。繁忙期の前に保管スペースがなくなってしまったので現場は混乱。工場の1つを代わりの保管スペースとして利用することになりましたが、中ものを移動させるのに大変苦労したのを覚えています。峯さんを中心に、「もうちょっとで終わるから」と声を掛け合いながら、夜遅くまで対応していました。

2021年

不況の中、家庭で見つけた光

営業努力のおかげで仕事はあったものの、2020年に引き続き耐える年でした。この2年間は大幅に仕事が減った年だったと記憶しています。一方、プライベートなことですが、上の息子が中学校に入学、娘の小学校の案内や準備などが重なったため、「子どもの成長は早いな」と実感した年でした。

この4年間で最も印象に残っているエピソード

生まれ変わるべきタイミング

昨年の3月より、2~3か月に1回、東京で行われている経営者養成を目的とした外部研修に参加しているのが、私の中では最も印象に残っている出来事です。2021年の末に社長から、「こういう研修があるが行かないか？」とお誘いを受けたのがきっかけ。実は最初は何回かお断りしていました。過去に参加した先輩方が苦悩している姿を見て、「自分には無理だな」と感じていたからです。ただ、その先輩方から「行ったら行ったで楽しいで」「良い経験やで」というアドバイスをいただき、「今までの自分じゃアカンな」という思いを抱いていたこともあって、2022年の正月に参加を決意しました。毎日取り組まなければならない課題があるので大変ですが、自分のタメになることなので頑張っています。その甲斐あってか、メンバーのことを以前より広く見られるようになって感じました。周囲の皆さんがどう思っているかはわかりませんが、以前よりも話に傾聴できるようになり、冷静に物事を判断して指示が出せるようになっていると思います。研修での「毎日褒めなさい」「人の良いところを見つけなさい」という教えの下、実践できたシーンがあったので、研修参加の収穫のひとつと言えるでしょう。

2020年

想定外の事態

コロナ直撃。旭紙工に入社して以来、これほど暇になるものかと思うほどでした。一部の社員の方には、数日から1週間単位で「休んでください」とお願いすることに……。伝える方も伝えられる側も辛い思いをして、会社自体がどうなるのか、と不安を覚えました。また、当然のことですが、休日を命じられた社員は「この人は入社してなぜ自分は……？」という思いを抱いたことでしょう。そのため、とにかく話し合いで解決することに尽力しました。辞めずに続けてくれているメンバーもいるので、本当に感謝しています。仕事があることのありがたさを痛感した1年でした。

2022年

未来に向けてリスタート！

もともとアルバイトで働いていた松尾さんが正社員として入社してくれたことで、物流部の雰囲気もフレッシュになりました。アルバイトも含めて高齢なメンバーが多いので、若返りの実現に向けた第一歩になったと思います。彼のことは小さいときから知っているのですが、私と峯さんときには厳しく、ときには優しく指導し、数年後には部門の責任者になれるように育てていくつもりです。

今後の目標

原点回帰

まずは外部研修を良い成績で卒業できるように、毎日自己啓発に努めます。今は研修が頭の半分以上を占めていますが、その後は一度原点に立ち返りたいと思います。2018年当時のインタビューで掲載してくれているように、「人に恵まれてきたのでそれを他に還元していきたい」を、4年前よりも現実に近づけられるように尽力していきます！

